

文学の授業で読みを深めるために

——「K」の自殺をめぐる討論会——

末 広 鈴 江

一 はじめに

生徒たちは授業の中で、なかなか積極的な発言をしない。自分の意見に自信が持てないのか、人目を気にしてのことなのか、指名をしても「わかりません」の連続。ところが、書かせてみると、ほとんどの生徒がちゃんと自分の意見を持っている。この生徒たちの声を教室で聞きたい。また、生徒たちの活発な意見の交換を教室の中で実現したい、というのが私の願いであり課題でもあった。

二 討論を通しての今までの授業

この取組みを行った生徒たちが一年生の時、『羅生門』を行った。そして、最後に下人がやったことについてどう思うか意見を出し合った。

二年生の一学期で『山月記』取り扱ったときには、作品の主題や李徽の生き方について班討議をした。この班討議

の際、事前に司会者を決めさせておき、その司会者には「司会マニュアル」を渡して話し合いの手順を確認しておいた。また各個人には意見メモを持たせておいたため、話し合いは比較的スムーズに行われた。

しかし、両者ともお互いが意見を出し合うだけで、それ以上の深まりのあまりないものに終わってしまった。意見の交換も意味のあるものだが、もっとお互いの読みが深まるような話し合いができたらと感じた。生徒たちは何をどう話し合っただけでよいのかわからない様子で、お互いの意見を発表しあうだけで精一杯という感じだった。私自身も生徒たちとまどいを感じながらも打開策が見つからないのでいたのである。

三 デイベートとの出会い

そんなとき「月刊国語教育」でデイベートの特集があった。

ディベートとはあらかじめ与えられているテーマに対して、肯定・否定の二つの立場に分かれて論じあう討論ゲームである。討論者は肯定・否定のいずれかの立場に立ち、所定のルールに基づいて討論する。討論者はあらかじめ自分の立場がはっきりしているので、討議の最中何が論点なのかわからなくなることは少ない。従来の討議法が帰納法であるならばこのディベートは演繹法であるといえよう。

生徒の国語嫌いの要因の一つとして「答え」がはっきりしないからというのがある。しかしディベートは最初に「答え」が与えられているようなものだから、生徒にとつて、話し合っている最中「ゴール」のみえない迷路に入り込んでしまったような絶望感はない。このような方法だったら、もしかしたら今までと違う話し合いができるのではないかと思つた。

四 文学の授業とディベート

現在高校で行われているディベートは「校則は必要か」などの、いわばH R 討議的なものが多い。国語科の授業の中でも、例えば『高瀬舟』のまとめとして「尊厳死」の問題について討議したりと、読み取りには直接関係のない形のものが多いようだ。

文学の授業の場合、読みを一つにまとめてしまうと危険なこともある。しかし、読みを探るための一つの手順とし

て、ディベートのような対立意見を基底に据えた討論を用いることは可能ではなからうかと考えた。以下ディベートの討論方式を取り入れた対立討論をディベート型討論と呼ぶ。

五 授業の展開

(1) 対象生徒の実態

対象生徒：広島県立尾道北高校二年生(三クラス)

実態：素直で生徒同士の仲もよい。読書好きな生徒も多く、いろんなことに問題意識を持つ生徒も多い。

しかし、学習に対してはやや受け身的な実態もあつた。

(2) 討論にいたるまでの「ころ」の授業(七時間)

第一次：作者紹介・教科書部分の本文音読

第二次：初読の感想の代わりに「Kの性格」「先生の性格」「Kの自殺の理由」「先生の自殺の理由」の四点について思いを書く。

第三次：本文の内容を手引を使って学習する。(本文の流れを押さえるとともに細かい描写「私」の心理を押さえていった。ただし、「K」の自殺の理由については課題とちて残したままであつた。)

第四次：「K」の自殺の理由と作品の主題を考えて書く。

(3) デイバート型討論をするに至った動機・目的

第四次で生徒たちが書いた「K」の自殺の理由は見事なまでに二つに分かれた。「友人に裏切られてしまったショックから」と「自分の目指す道に外れてしまったから」との二つである。いうなれば前者は浅い読みの段階で踏みとどまっている読み手たちである。教授者の授業の未熟さを痛感させられるとともにこれからの授業のまじめに思いあぐねってしまった。

そんな折、ちょうど興味を持っていたデイバートを思い当たった。生徒たちの対立した意見を闘わせることによってお互いが読みを深めていくことができたらと考えたのだ。デイバートそのものを文学の読み取りに取り入れることは難しいが、デイバートの討論方法を用いて読みを深めさせることは可能であると考えた。

(4) 討論の事前指導・準備

予備討議が終わったところで各班の班長を呼び、A・Bそれぞれの代表グループを選出した。

項目

指導上の注意点

討論を行なうにあたっての注意事項を言う。

- ・ここでは勝ち負けではなく、真理の追求が最終目的であることを確認する。
- ・聞く姿勢も大切であることを確認しておく。

討論のための班分けをする。

- ・それぞれに話し合いの核になる生徒がいるように配慮する。

(一班は5〜7名)

予備討議を班に分かれて行なう

- ・班長を決めさせ、班長を軸にして話し合いを進めるよう指示する。
- ・相手の反論を予想し、自分たちの輪の根拠となる材料をできるだけたくさん探させる。
- ・自由に話し合いが行えるように特別教室で行った。

(5) デイバート型討論の手順・展開

今回の討論は準備不足ということもあって司会は教授者が行った。

(6) 実際の討論

まず、生徒の書いた感想メモをもとに、Kの自殺の理由について「友人に裏切られたショックから」と「自分の目指していた道に外れてしまったから」の二種類のグループに生徒たちを分け（二グループ五〜七名）、予備討議をさせた。予備討議とはデイバート型討論に備えて自分たちの主張を明確にさせるためのものである。その予備討議はまわりの教室を気にせず自由に話し合いができるようにと特別

討論の手順	時間	具体的な手順と留意点
立論	各3分	各グループが自分たちの論を発表する。
作戦タイム	5分	相手の立論を受けて、相手の論の矛盾や問題点について検討して反対尋問に備える。
反対尋問	7分	相手の論の矛盾や問題点について質疑応答する。 この時、自分たちの論に矛盾や問題があれば素直に認める。
作戦タイム	3分	反対尋問を受けてもう一度自分たちの論を組み立てる。 国語の授業の中で討論は勝敗が問題ではないので、反対尋問を受けて自分たちの論に矛盾や問題を感じたときは自分たちの論を誇示しない。
最終弁論	各2分	最終的な自分たちの論を発表する。

教室（物理教室）で行った。

さて、本番のディベート型討論であるが、準備不足ということもあて司会は教授者の側であおこなった。また、特別教室では机の配置が難しいため普通教室で行った。

（机の配置は後に記載）

以下は実際の討論を生徒のメモをもとに再現したものである。

T：それでは今から討論を始めます。まず立論をしてもらいます。

A：はい。僕達はKの自殺の理由は友人である「私」に裏

切られたからだと思います。なぜならばKにとって「私」は下宿の世話をしてくれたり、いろいろな面倒を見てくれた相手であるので、Kは「私」を信頼しきっていたと思います。だからこそお嬢さんに対する恋心も告白したのだと思います。それなのに「私」はKの知らないところでお嬢さんとの縁談を進めるといふ卑劣な手段にでました。信頼しきっていた友人にこれほどまでに裏切られたことはKの自殺した理由は「私」に裏切られたからだと思います。

B：僕達は、Kはお嬢さんに恋をしてしまったために自らの求めていた生き方が出来なくなったために自殺したのだと思います。なぜならばKの心条は「精神的に向上」していくことであり、精進という言葉が大好きな彼にとって恋には持つてのほかだったわけです。

T：双方の立論が終わったところで作戦タイムを取ります。それぞれの相手の立論をふまえて質問をしてください。：五分が達しました。今からを反対尋問の時間とします。

A：まず、Kの自殺した時期ですが、「私」とお嬢さんの縁談が決まってからです。道に外れてしまったことが自殺の理由ならばもっと早くに死んでいたのではないですか。

B：時期のことですが、遺書にも「もっとはやくに死ぬべきだった」と書いてあります。だから死ぬことはもっとはやくから覚悟していたのだと思います。

A：それならば、奥さんから話を聞いたときKが変な顔をしたのはなぜですか。

（机の配置は後に記載）

以下は実際の討論を生徒のメモをもとに再現したものである。

B：それは予想していなかったことだったからだと思いますが、これが直接の原因だったとは考えられません。それに「覚悟」と行ったKの言葉をどう考えますか。「私」自身が「もう一度彼の口にした覚悟の内容を公平に見回したならば、まだよかったかもしれません」と言っていることから、覚悟とは死ぬことを表しているのではないですか。それに裏切られたことが直接の原因だったなら、遺書にもお嬢さんのことが書かれているのではないのでしょうか。

A：教科書に「Kがわざと回避したのだとわかりました。」と書いてあります。お嬢さんのことが遺書に書かれてないのはKの優しさだと思います。「私」に随分世話になったし、Kにとっては唯一の友人であったわけだから「私」が困るようなことは書かなかつたのだと思います。「もっと早くに死ぬべきだったのに」というのは、もっと早くに死んでいたら「私」の裏切りを知らずにすんだということではないのでしょうか。

B：確かに「もっと早くに死ぬべきだったのに」の言葉はそういう意味合いもあるでしょう。けれども、恋をしてしまった時点から道に外れてしまっていたわけだから、その時点で死んでいたら友人を苦しめずにすんだと思つたのではないのでしょうか。奥さんから話を聞いたとき、Kは「私」もまたお嬢さんを好きだったことに気付いたのではないのでしょうか。それでは、「精神的に向上心のないものはばかだ」

の一件以来、Kが沈みがちだったのはなぜでしょうか。

(この後もKの性格なども絡み合わせて反対尋問が続いた。)

T：もうずいぶん時間がたってしまいました。今からもう一度作戦タイムをとります。最終弁論をまとめてください。A：僕はKの自殺の理由は友人である「私」に裏切られたからだと思っていました。討論を進めた結果、Kが自殺したのはやはり道に外れてしまつたからだと考えようになりました。討論を進めていく中で、理想と現実の間で悩んでいたKは早い時点で死を覚悟していたのだから、「私」とお嬢さんの縁談を聞いたときには既に自分の中で結論を出していたのだと思うようになりました。

B：僕達もやはりKの自殺の理由は道に外れてしまつたことだと思えます。Kは恋をしてしまつた時点で進むべき道を失つてしまつていたんだと思います。理想の道と恋に進む道との間で迷つていたKは「私」に相談をしたわけですが、そのとき返つてきた言葉は「精神的に向上心のないものはばかだ」というものでした。Kは恋をしてしまつた時点から心のどこかで死を覚悟していたのだと思いますが、この言葉以来ますます死を意識し始めていたのだと思えます。それでも道を貫くことのできなかつた自分への自己処罰になかなか踏み切れなかつたわけですが、お嬢さんと「私」との縁談を聞いてようやく自己処罰に踏み切れたわけです。だから、「私」の裏切りは自殺のきっかけとなつた

わけで、自殺とは無縁ではなかったと思いました。

最終的な到達点はクラスによって様々であった。このクラスではKの自殺は「自己処罰」だという意見が出たが、他のクラスでは自分の道貫く最終手段が自殺だったという意見も出た。

(7) デイベート型討論の評価

評価については判定評に基づいて行なった。得点合計も発表はしたが、おもに寸評を紹介した。この討論を一人一人が読みを深めるきっかけとして位置付けたかったので成績には加味しなかった。その後、討論の感想、「ころ」を学習しおえての感想を書かせた。

(8) 討論後の生徒たちの感想

1 討論を実際に行なった生徒たちの感想

* すっごい興奮してしまった。根拠とかを考えて立論していくことは難しかったがなかなかおもしろかった。違う立場の人の意見が聞けて参考になった。

* ああいうことをやるのは小学校の国語の授業以来、久しぶりのことだったからか、必要以上に興奮してしまっ

た。おかげでああいう早口になってしまい、反省している。あと指摘もあたように少しでしゃばりすぎたかもしれない。このような授業は新鮮で、内容の理解を深める効果も大きいと思う。自然に文章のポイントをつかむコツというか、そういう力が養われるのもよい。

* この作品を読んだときは、わけのわからない言葉が多く、登場人物などの関係が複雑だったのでよくわからなかった。でも少しずつ読んでいったり、デイベートをしたりして少しわかったような気がする。夏目漱石という人は、こんなにかえさず小説を書くのだからすごいと思った。

* リハーサルのようなものがあったら、もっとうまくまとめることができ、みんなで発表できたかもしれない。やっぱり急に質問されるとすぐに答えられないし、まとめられないし、でもそれはそれでよかった。難しかったけどリーダーのT君ががんばってくれたし、後のみんなも作戦タイム中にいろんな意見をだして一人一人が真剣に取り組んだのですごくよかったと思う。チームワークがよかったと思った。

* 今まで話合いというのは、すごく緊張していやだったけど、デイベートも緊張するんだけど、自分がうまく説

明でできなくても誰かが助けてくれるという安心感があるのがよかった。

* 代表になったときは絶対いやだと思ったけど、いざ本番になったら自分でもびっくりするぐらい熱くなっちゃった。

* いままででの授業よりおもしろかった。なんとなくゲームみたいで楽しめた。

* いざ本番となるとみんな燃えていたのですごいと思った。みんなが見ている中、真中の法へ座るだけでも恥ずかしく、意見などいえなかったがいい経験をしたと思う。

* もうちょっと小人数のほうが自分の意見を出しやすかった。でも一つの問題をみんなで見えを出して話し合うことは大事だと思った。

* 外で見ている人たちは気楽でいいと思った。なんだからだいう人はじゃあ自分たちが今度は真中でやってみればいい。

2 審査にまわった生徒の感想

* 自分たちが審査をするということもあったいつもよりも一生懸命聞くことができた。

* 今度は私も討論の方に参加したいと思った。

* みんないつもより活発に意見を言っているのびっくりした。私ならあんなに言えないと思った。

* 討論をしているのを見るだけというのは発表したくてもできないのでつらかった。

* みんなで協力している様子が今までと違ってよかった。

* 裁判みたいだった。一人一人がしっかりした考えを持ち、みんなが発表できればなお良し。

* 二つに分類してグループごとに意見を出しあうところがおもしろかった。

* このようなことをしていたら考えもふくらむし、本当のことを見つけようという努力も出て来るからよかったと思う。

* 途中(聞いていて)頭がこんがらがって何がどうなっているのかわからなくなりました。今度するときは自分の考えをしっかりと持ったのぞみたいと思う。

* クラスの中に一つのことについてたくさん違う意見があるなあと思った。「こころ」は難しかった。「こころ」を本当に理解するのはかなり難しかった。

(9) 『こころ』を学習し終えての生徒の感想

* 小学校のころ「坊ちゃん」を少し読んで「おもしろくなかった」という感じが残っていたので「こころ」も難しいわけのわからない話かと思ったけどすごくおもしろかったと思う。普通だったら読んで「あー楽しかった」で終わる話もいろいろ討論しあって「あ、こんな風にも考えられるんだ」みたいに自分の考えと違う意見を聞いたり、「私」「K」の気持ちなど考えあってすごく楽しかったと思う。

* 深く追求すればするほど問題が増えて、考えさせられることが多かった。人の心境は複雑でなかなか読み取れないと思った。

内容は難しかったけど、読み物としてはすごくおもしろかた。

* 『こころ』は前に読んだこともあったが、私はこの「先生」と「K」の話から教訓を得た(前・中編)「私」がこれからどのように生きていくのか興味を覚える。

漱石の作品は読みやすいと思う。簡潔に見える作品の中に大きな「含み」が含まれていて、一文の中に駄文の二・三文に勝る意味があると思う。

* はじめ読んだときは、単に「私」と「K」の間でなされた悲劇だなあと感じた。けれど学習していてこのことが生きている私たち一人一人のうちに宿っている自我というものによってなされたのだと感じるようになった。人間の深いところを描いた作品だと思った。

漱石も自分の内にあるそういう部分に気付いて見事にそれを表現したのだと思う。

* 普通の人を取り上げて考えもしないような、人間の心の底の心情を取り上げて、それを深く深く文章に書きあげているところがすごい。何通りにもよみつぶせるところがよい。

* 考えれば考えるほどわからなくなる小説だなーと思いました。夏目漱石はどうしてこのような奥深い、人を考えさせる小説がかけるのかなーと関心しました。

『こころ』は謎めいた感じの小説ではっきりと、Kの

自殺した理由とか書いてなくて難しいな—と思いました。

* 夏目漱石は心の中の表し方や比喩がとてもうまいと思つた。登場人物の心の中の微妙な思いも読んでいて伝わって来るし、わかるような気がした。また比喩にしても普通の人なら思ひもつかないようなそれでいてわかるような比喩を上手に使っていると思う。

六 考察と今後の課題

最初は戸惑っていた生徒たちだが、討論時の生徒たちはみな生き生きとしていた。今までは「恥ずかしい」間違っていたらどうしよう」という思いから消極的になつていた生徒たちだが、今回は「恥ずかしさ」を共有してくれる友達がいるということが大きかったようだ。発表のとき、もし言葉につまっても助けてくれる友達がいるという安心感から、生徒たちは生き生きとした言語活動を広げられたのではないだろうか。その様子は休憩時に生き生きとおしゃべりを繰り広げるときのものに似ていた。

また今回の討議での効用は、今まで以上に生徒たちが本文を読み、一行の中に込められた意味を深く読み取ったことである。学習者の感想からも伺えることだが、読みを深めることの楽しさ・おもしろさを身をもって体験できたことが何よりだったと思う。しかも、教授者に導かれるので

はなく、討論と通して自分たちが自ら読みを深めていったことに、学習者はより大きな充足感を覚えたようである。審査にまわつた生徒たちもクラスメイトの活発な討論光景に圧倒されたようであった。

確かにこの討論は学習者の言語活動を活発にした。しかし、このような方法がいつも文学の読み取りに有効であるわけではないし、審査役にもまる学習者にも十分に充足感が与えられる工夫など課題は散在している。これからも、学習者の言語活動を活発にし、読み取りにも大きく関わっていく討論のあり用を模索していきたい。

(広島県立大柿高校)

(資料1) 机の配置

